

<巻頭言>

「一つの重大事故／」
「ハインリヒの法則！」

クイズ大会では早押しクイズの「ベタ問（よく出る問題）」として知られていますこの問題、皆さんはここでボタンを押せるでしょうか。

早押しクイズの猛者は、「ポイントが遅い！俺なら「一つのじ／」で押すよ！」「一つの妖怪」で始まる共産党宣言との聞き分けが必要だね」何て声もあるかもしれません。

・・・ですが、その根底にある、この法則の意味をみなさんご存知でしょうか。

ハインリヒの法則とは「一つの重大事故の背後には29の軽微な事故があり、その背景には300の異常が存在する」という、労働災害における経験則です。

「クイズ大会で安全対策なんて」「事故なんて起こるの？」と馬鹿にする方も多いでしょう。

しかし、私個人が主催・参加で過去300以上のクイズ大会に関わった中、軽微な事故が10件ほど起きていますと認識しています。決して「事故が起きない」とは言えず、ハインリヒの法則に従えば「あと19件軽微な事故が起きると、重大事故が起こる」ことになります。軽微な事故や異常をできる限り減らしていくよう、努力せねばならないということです。

AQLでは、各地域代表が「安全の責任者」を務めます。今回、各地でクイズ大会主催経験が豊富な地域代表と共に、「安全ディスカッション」として、「クイズ大会に起きうる事故と、その防止策」を真剣に話し合っていました。こちらでは、その事例を議事録として記述しました。

防止策について、何でもかんでも全てマニュアル化すると「形骸化したマニュアル」になりかねないため、マニュアルに反映するものは限りました。ですが、これらの事例をご覧いただくことで、皆様に安全意識を高めていただければと思っております。

事故の確率を完全にゼロにすることはできません。ですが、限りなくゼロに近づけることは可能と考えます。

今回の議事録をクイズ大会に関わる多くの方にもご覧いただき、クイズ大会での事故を限りなくゼロにできるよう、ご協力頂ければと思います。

2018年6月1日
AQL代表 市川 尚志

検討日 提案者	検討場面	対応
2018.6.1 市川尚志	早押し機のコードにつまづいて転倒・転落し、負傷をする。	コード類は人が通らない場所に配置し、通行禁止とする。
2018.6.1 伊藤倫	机の設営時に指を挟む（折りたたみ机、重い机の運搬）	<ul style="list-style-type: none"> ・キャスターのない机を運ぶ際は必ず2人1組で持ち運び、互いに声をかけあう。 ・設営前に地区代表より注意喚起実施
2018.6.1 片岡桂太郎	雨天時などに階段や廊下で滑って転倒・転落する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に滑りやすい場所の情報を収集し、共有・周知する。 ・特に危険な場所がある場合には誘導員を配置することも検討する。
2018.6.1 徳久倫康	クイズ中に机を押してしまい、転倒や転落、落下物によって負傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャスター付きの机は、設営時にストッパーがかかっているか確認する。 ・舞台上に机を設置する場合は、舞台端から十分な距離を取る。
2018.6.1 市川尚志	大きな物を視界不十分なまま運搬し、構造物に接触したり段を踏み外したりして負傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなもの、重いものは2人以上で声掛けしながら運搬する。 ・必要に応じて作業員とは別に誘導員を配置する。
2018.6.1 市川尚志	パーティションで部屋を仕切るときに、パーティションを勢いよく動かしてしまい、挟まれて負傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティションは1人が1枚ずつ、始動開始から固定までを全て行う。 ・前方を確認しながら両手できちんと握って動かし、突放（投げ渡し）は禁止。
2018.6.1 Taguchi Wataru	椅子や机が収納されている重たい台車にひかれ、足を負傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・台車は、周囲に人がいないことを確認して移動させる。 ・人がいるときは、周囲に声掛けを行い、作業員とは別に誘導員を配置する。
2018.6.1 岩井雅史	非常時以外開放不可の窓を開け、それによらず転落する。	<ul style="list-style-type: none"> ・窓開閉の可否を、全参加者に明示する。 ・空調を積極的に利用する。
2018.6.1 松村敬光	目の不自由な参加者が会場内を歩行時、躓いて転倒し負傷する	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリーの際に介助の可否や配慮が必要な点を連絡いただき、事前に担当（スタッフ側か、参加サークル側か）を明確にする。 ・会場のバリアフリーの度合いを確認し、不安箇所があれば参加者側に事前に注意喚起する。
2018.6.1	大会中、参加者・スタッフが心停止状態に	・会場内のAED設置場所を確認し、周知

検討日 提案者	検討場面	対応
春日誠治	陥る。	する。
2018.6.1 市川尚志	早押しに興奮しすぎて、正解した時ジャンプして後ろの壁に頭をぶつけ大けがをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・早押し機の周りにはゆとりを持ってスペースを作る ・あまりに入れ込みすぎている参加者には、司会などが随時声かけをする。
2018.6.1 市川尚志	過度の集中、興奮、緊張、水分の欠乏で脱水症状や痙攣等を引き起こす。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な休憩時間の確保と、冷房環境下でもこまめな水分補給の声掛けを行う。(特に夏季)
2018.6.1 市川尚志	不審者の侵入・乱入	<ul style="list-style-type: none"> ・団体受付と見学者の確認を徹底し、不審者が会場に入らないようにする。
2018.6.1 志村厚樹	会場に関わる AQL 以外の情報の流出(例：会場とした学校の掲示物が写真に写りこむ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入対策を徹底した上で、参加者にはインターネットにアップロードする写真には参加者以外の情報が写り込まないように注意するように呼びかける。
2018.6.1 松村敬光	歩きながらスマートフォンを操作したため、設置物に躓いて転倒したり構造物に接触したりして怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・歩きながらスマートフォンを操作・注視しないよう、参加者及びスタッフに注意喚起する。
2018.6.1 小鍋祐輔	正誤判定などで揉めて言い争いになり、一方ないし双方が暴力行為に及び怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・機嫌が悪い人には、まず冷静になるようにスタッフが促す。 ・万が一に備え、各部屋に社会人のスタッフを常駐させるようにする。
2018.6.1 片岡桂太郎	早押し機の漏電・発火(原因は本体の不具合、漏電等による供給電圧の異常など。家庭用電源でも感電すれば死亡に至りうる電圧)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセント部分に漏電ブレーカーを使う ・早押し機から異音・異臭・異常な発熱を感知した場合、静かに離れる。その際、スタッフが電源コードを抜く
2018.6.1 能勢一幸	大会の司会・アシスタントがステージから落ちてしまう(奥行きがないと早押し機コードなどの関係でステージの縁に立たざるを得ない)	<ul style="list-style-type: none"> ・司会・アシスタントの安全な立ち位置を準備段階で確保する。 ・ステージ上にこだわらず、観客席からの進行も検討する。